熱血 野町まさき

高知県議会 2018 平成30年4月

県政レポート Vol.6



園芸用ハウス整備事業（災害復旧区分）の制度改正!
～園芸農業のセーフティネット強化へ!～

台風21号による園芸用ハウスの被害状況調査！

ごあいさつ

高知県議会議員の野町まさきです。春爛漫の候、皆さま方には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、私が初当選をさせていただいてから早3年が経とうとしています。一期目の最終年度は、商工農林水産委員会の副委員長として、永らくお世話になってきた農政の舞台で、しっかりと恩返しができればと考えております。昨年は、度重なる台風被害で、県内でも尊い人命が奪われ、県東部地域においても園芸用ハウスの倒壊など農林業に甚大な被害が発生しました。私もいち早く国会議員や首長、市町村議会議員の皆さんらと被害調査をさせていただきました。その後、知事との意見交換や関係部長らへの要望、また、県議会などの場を通じて現場の悲痛な声を届けてまいりました。その結果、県の園芸用ハウス整備事業（災害復旧区分）では、補助率やハウスの高度化対応など一定の改善が図られました。今後は被害ハウスの復旧は勿論ですが、園芸農業のセーフティーネット機能の一つとして活かされることを期待します。

2月定例県議会の本会議でも一般質問（一問一答）に立たせていただき、地域の皆さまの声を県議会に届けることができました。今回の県政レポートではその内容を中心にご報告させていただきます。まだまだ、未熟ではありますが、皆さまのご期待に沿うよう誠心誠意努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

平成30年4月

野町 雅樹



芸西村長、JA土佐あき組合長らと
県農業振興部長に災害復旧対策を要望

熱血 地域の皆さんのご要望を県政、国政に繋げます。



国会議員への要望活動
（衆議院議員会館）



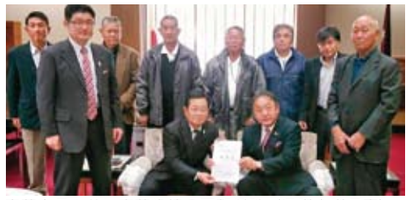
山本前農林水産大臣と若手農業者との意見交換会



次世代ハウスの整備（芸西村）
（産地パワーアップ事業）が進む!



自民党県議団と知事との意見交換会



安芸市長と共に安芸漁協の要望活動（県議会議長室）



安芸商工会議所女性会の皆さん
との意見交換



中谷衆議院議員をお迎えし県政報告会を開催［平成29年8月］
200人を超える皆さんに参加いただきました（安芸市）



竜王池（安芸市伊尾木）の
災害対策工事（2.4億円）が始まる!



安芸事務所での打合せ

熱血 多くの地元イベント等に参加させていただきました



はし拳大会野市場所に参戦

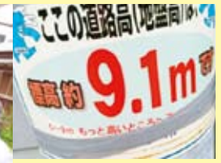


芸西村いきいき劇団の皆さん～特殊詐欺をテーマに熱演～



全国商い甲子園（安芸市）





地震発生時の避難路の
現地点検（安芸市）





安芸タートルマラソンの走路清掃
安芸市立安芸中学校ボランティア部の
皆さんも参加！



安芸全国書展高校生大会



安芸タートルマラソン大会出場



Information

野町 まさき
県政事務所
自由民主党

安芸事務所 〒784-0022 安芸市庄之芝町1-52
TEL & FAX 0887-37-9781
E-mail nomachikoenkai@outlook.jp

facebook 野町雅樹 で配信中

本議会、常任委員会、特別委員会、予算委員会は特別の場合を除き、どなたでも傍聴できます。
高知県議会 検索 http://www.pref.kochi.lg.jp/~gikai/

2月定例県議会　一般質問の要約

1 グローバル人材育成について

(1)本県学校教育におけるグローバル人材育成の必要性について

野　町　自民党県議団では昨年11月、シンガポールにおいて、本県からの輸出品を扱う量販店や企業などの実態調査を行った。各店舗では、ユズ製品はもとより土佐酒やその他の加工食品、水産物など一部の商品が定番化





シンガポール大手飲料メーカー（ＭＤＩ）のユズジュース（PeelFresh）

され、ユズ果汁については、国内最大の飲料メーカーで高品質ユズジュースとしてブランド化しており、今後、「ＫＯＣＨＩ・ＹＵＺＵ」のロゴの使用やマレーシアへの販路拡大などが検討されている。平成28年の本県の食料品輸出額は、約7億2千万円となり平成21年の14倍となっている。さらに県産品の輸出拡大を図るに当たって最も重要な事は、そこに携わる国際的な視野や感覚を持った若い人材を県内で育成することだと考えるが、本県の学校教育におけるグローバル人材育成の必要性について聞く。



知　事　現在、ますますグローバル化が進展していく中、グローバル人材の育成はご指摘のとおり極めて重要だろうと思います。幅広い教養をもとにした高いコミュニケーション能力を身につけるということが第一、また、グローバルな人脈の中で外国の方々を相手に、課題発見や課題解決を行っていけるような力が、これからの日本に求められていくだろうと考えています。こういう力というのは生涯をかけて身につけていくべき力と思いますが、そのためにも学校教育の段階で、その基礎をしっかりと身につけることができるようにすることは非常に大事だろう考えてます。

　学校教育においても、そのような観点から、単に英語教育ということにとどまらず、より幅広いグローバル人材育成のための取り組みが求められると考えております。

(2)スーパーグローバルハイスクール指定事業のこれまでの成果について

野　町　平成27年度に、スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）に指定され、3年目となる県立高知西高等学校における国際教育の取り組みについて問う。

教育長　高知国際中・高等学校が行う国際バカロレア教育では、多様な文化的歴史的な背景を持つ外国人の人々とも密接にコミュニケーションを図りながら、高い志を持って主体的、協働的に課題解決を図るとともに、新しい価値を創造していく姿勢や能力を持った人材、また国際



バカロレア校の認定を踏まえた県立高知国際中・高等学校におけるグローバル人材育成の目標について問う。

当校のＳＧＨ構想では、グローバル教育が目指すべき人材を「郷土を愛し、その発展に貢献できる人材や、高い志を持ち高知から世界へチャレンジできる人材」とし、また、開発構想のテーマを「食を活かした地域創生」と定めている。まさに本県の産業振興計画が目指す方向性や担い手育成の目的と合致する構想だと思うが、当校におけるこれまでの成果について問う。

教育長　高知西高等学校では、食を生かした地域創生をテーマに研究を行うことにより、グローバル人材の育成に取り組んでいるところです。1年次は県内の企業職場の訪問学習を行い、生徒自ら本県の地域創生モデル案を作成し発表を行っております。2年次はグループで、3年次は個人で関心のあるテーマから課題を設定し、シンガポール、香港、台湾、タイなど、海外でもフィールドワークを実施しながら、リサーチペーパー論文としてまとめ発表を行っております。英語による生徒発表会や大学教授と生徒によるシンポジウムを開催することで、発表者自身が、大勢の前でスピーチする能力が身につくだけでなく、同じクラスの友人が堂々と英語で発表する姿に感銘を受けたといった感想があるなど、個々の生徒にもよい刺激となっております。

　こうしたことによりまして、目的意識を持って学ぶ姿勢が身につくとともに、生徒同士で議論を行い、自分の考えをまとめ、英語で発表する能力が身につくことで、大学の推薦入試の合格者数が増加するなど、進路実現にもつながっております。

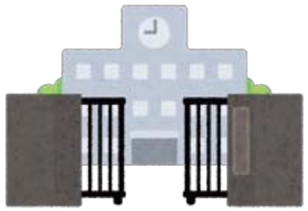
　また、直接的な効果ではございませんけれども、関連するものとして、普通科1年生の英語技能検定の準2級の合格率も大幅に上昇しております。


世界津波の日高校生サミット（平成28年11月）会場にて世界の高校生と意見交換する県内高校生たち



(3)県立高知国際中・高等学校におけるグローバル人材育成の目標について

野　町　本年4月に開校する高知国際中学校は、定員60名に対して受験者数237人であり、県民からの当校、また、3年後に開校する高等学校に対する期待度の大きさが覗えるが、国





的な視野を持ち、かつ国際共通言語である英語を駆使して、地域や国際社会の発展に貢献できる人材の育成を目標としております。これは生きる力の理念のもと、学力の充実に向けて重要となる主体的、対話的で深い学びを実現するという次期学習指導要領が目指す方向性とも一致をしており、これからの教育を先取りしたものであり、高知国際中・高等学校には県全体のグローバル教育や、探求型学習の牽引役としてリードしてもらうことを期待しております。

⑷同校での道徳、主権者教育について

野　町　真の国際人には、国や地域を愛する心や道徳心が備わっていなければならないと考えるが、同校での道徳、主権者教育に、どう取り組むかについて問う。

教育長　高知国際中学校では、国際バカロレア教育のプログラム持ちまして、文科省の学習指導要領に基づいて、道徳や公民の授業の中で、年間指導計画のもと道徳や主権者教育に取り組んでいくことにしております。また、高知国際中・高等学校では目指す人物像を国際バカロレアの中の学習指導とし、「共通する人間らしさと地域をともに守る責任を認識し、より良いより平和な世界を築くことに貢献する人間を育てること」としており、日々の授業はもちろんのこと、学級活動、課外活動といった教育活動全体を通じて、道徳教育、主権者教育を行ってまいります。



⑸グローバル教育におけるシンガポールとの交流について

野　町　県は、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿の誘致に向け、シンガポールなどに積極的な招致活動を行っているが、シンガポールでの我々の調査において、スポーツ庁のリムCEOからは、「スポーツでの交流を切っ掛けに経済、文化、教育などあらゆる面での交流に繋げていきたい」との、さらにその先を見据えたお話を貰った。今後のSGH指定事業や本県でのグローバル教育において、シンガポールとの交流をどのように進めるのかを問う。

教育長　課題探求に関するフィールドワークのために、シンガポールを継続的に訪れておりまして、平成28年度にはシンガポールにある日本企業の商談に同席したり、本年度はシンガポール国立大学などを訪れ、交流を図っております。今後ともこうしたシンガポールとの交流を深めてまいります。

　また、県教育委員会では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取り組みの一環として、平成28年にシンガポールスポーツ庁の皆さんと



シンガポール・スポーツ庁の皆さんと





シンガポール選手団のユニフォーム

クールとの間で、バドミントン、卓球のスポーツ交流の協定を締結しております。このシンガポールスポーツスクールは、国際バカロレア教育についても高いレベルで実施をしている学校でありますから、交流の範囲をこの国際バカロレア教育にも広げていくことを考えております。



⑹グローバル教育を受けた学生が県内で活躍できる仕組みづくりについて

野　町　本県産業の将来の担い手という観点から、そうした優秀な人材をできる限り県内で活躍できるような環境整備も必要であり、国際的な広い視野を持った人材育成こそ、今後の本県にとって重要な視点ではないかと考えるが、その仕組みづくりについて問う。

教育長　生徒が、将来、本県産業の担い手として活躍するためには、県内の産業や企業に魅力を感じ、また地域に愛着を感じて地域に貢献したいという志が必要でございます。高校では、地域の魅力や課題を探り、活性化策を考える、地域課題解決学習などの探求的な学習の機会を拡充していくことに加えて、来年度からは新たに全県立学校で県内企業の見学を実施するほか、企業との情報交換会を開催するなど、地域経済を支える県内企業を知ってもらう取り組みをさらに強化したいと考えています。

　高知国際中・高等学校においても今後、実際に経験することで学ぶこと、また、放課後や休日を活用して行う捜索活動、スポーツボランティア活動を通して地域とかかわり、また興味関心に応じた事柄について研究するパーソナルプロジェクトや課題論文を作成するなど、自ら課題解決を図る教育行ってまいります。このような教育を受けた生徒が、高い志を持ち、地域の発展に貢献するリーダーとなって活躍してもらえるよう取り組んでまいります。





2　農業の労働力確保対策等について

⑴県内での農福連携の取り組みの現状について

野　町　県では、来年度から新たに「農作業サポート隊」の設置や「農作業アルバイター」などの受け入れ体制強化への支援策など、各地域や県域での積極的な対策を進めるとのことである。その中でも、農業と福祉分野が連携し、ひきこもりなどの症状に長年悩まされ、社会との繋がりが希薄になっていた方々が農業現場やJA集出荷場などで働く機会が広がっていると聞きいているが、県内での農福連携の取り組みの現状について問う。

地域福祉部長　県内のJAでは44人の障害のある人が就労しており、集出荷業務や精米作業などに携わっています。また、障害者施設の利用者が、施設職員とともにトマト栽培や集出荷業務の現場へ出向いて作業を担い、習熟度等が向上することで集出荷場やトマトハウスに雇用される人も徐々に増えています。

　安芸福祉保健所管内でも取り

組みが進んでおり、現在11人の障害のある人が7件の農家で雇用され、ナスの栽培などの現場で働いていますし、本年度は安芸市と農業振興センター、福祉保健所が連携をして、研修会や交流会を開催することで受け入れ農家のさらなる開拓や地域で顔が見える関係づくりに取り組んでいるところでございます。



地域福祉部長　まずマッチングでは、受け入れ先となる農家に本人の特性などに配慮した仕事を提供していただき、その指導方法等を習得してもらう、ひきこもり状態にある人お1人お1人の特性や状態に応じて、段階を踏んで支援をすることなどの仕組みづくりが課題として挙げられます。

　次に、雇用された後の課題といたしましては、本人及び雇用した農家に対しまして、随時、専門的な助言や支援を行う体制の整備が挙げられます。また、きめ細かな支援体制を、それぞれの地域で構築するコーディネートが必要だと考えております。

　対応策といたしまして、まずマッチングの課題に対応するために、地域の農家に実際の雇用事例を県が開催をいたします発表会などを通じて知っていただくとともに、障害特性などを理解していただくこと、またひきこもりの状態にある人などに、ユズの収穫などを地域や農家の人とともに体験をしていただく機会を創出すること。さらに、こうした体験を通じて、理解が深まった農家で短期の就労プログラムを実施すること。さらに、次のステップとして本人との間に適した職業訓練を数カ月程度実施し、相性や適性をお互いに見きわめていただくなど、就労に向けて段階を踏んだ対応をしてまいります。



　さらに、雇用後は県内5カ所に設置をしております障害者就業生活支援センターが中心となりまして、職場訪問や随時の相談に対応した支援を本人と農家双方に行うなど、きめ細かな定着支援を行ってまいります。こうした取り組みを来年度新たに配置します農福連携コーディネーターを中心に、農業振興部と連携して実施することによりまして、県域に農福連携の取り組みを広げてまいりたいと考えております。



野　町　農業現場の労働力不足と障害者の社会復帰や自立支援といった地域社会の課題を解決するための素晴らしい取り組みであり、しっかりと課題を整理して持続可能な取り組みに繋げ、それぞれにとってウインウインの関係が構築されることを期待する。

(2)農福連携の県域拡大に向けた課題と対応策について、

野　町　受入れ農家を含む関係者からは、当事者の特性に合わせた受入れ先や作業内容の選定、また、トラブルが発生した場合の対応窓口や迅速な対応などが求められているが、こうした取り組みを県域に拡大するに当たっての課題及び対応策について聞く。



ＪＡ集出荷場のナス選果選別ライン（芸西村）

(3)ＪＡの外国人実習生の受入れについて

野　町　昨年11月、「改正技能実習法」が施行され、実習生一人当たりの滞在期間が3年から5年に延長され、さらに制度の運用改正によって、農家に加えてＪＡも実習実施者になれることとなった。北海道の3ＪＡが、先駆的に農協方式での制度の活用を始めており、県内のＪＡでも当制度による実習生の受入れが検討されている。本県でのＪＡによる当制度の活用について問う。

農業振興部長　ＪＡが実習実施者となって外国人実習生を受け入れる場合、実習生は研修計画に基づいた複数の農家での農作業や集出荷場、加工施設での作業が可能となり、個々の農家の負担が軽減される一方、ＪＡには技能実習指導員の配置や、監督などの負担も生じてまいります。現在この仕組みに関心をお持ちのＪＡとともに、技能実習指導員の監督や農作業の請負方法など、実際に取り組みを行う上で課題となるであろう項目をピックアップして北海道の先行事例を調査しているとこです。



　まずは、その調査結果をもとに、ＪＡが実習実施者となるメリット、デメリットについて、ＪＡグループの皆様と整理し、本制度の活用について議論してまいります。



3　漁港の有効活用と防災対策について

(1)漁港の有効活用と防災対策について

野　町　安芸市では、地下海水を利用したスジアオノリの陸上養殖事業を安芸漁港内に誘致し、養殖事業者と障害福祉サービス事業者との協働による事業化に向けた準備が進められている。スジアオノリの陸上養殖事業は、高知大学の開発した種苗生産技術を用いて室戸市で事業化された新しい地域産業であるが、室戸市以外での事業拡大は県内初ということもあり、是非成功をさせたいと考えている。また、安芸漁港内には平成24年にシラス加工業者が進出するとともに「安芸ちりめん丼」などのご当地グルメを活用した地域活性化が図られ、さらに本年度、新たなシラス加工業者が進出するなど、





スジアオノリの養殖事業に関する現地調査（室戸市）

野　町　この制度は、開発途上国などに農業をはじめとする技能などを移転し、その経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的とする制度である。しかしながら、本県においても実習生が失踪したり犯罪を起こす事案が増えている。こうした事を防止するには、よりしっかりとした人間関係の構築や労働環境の整備、また、管理体制の充実が必要であり、そうした点でもＪＡでの受入れが効果的に作用することを期待する。

さながら「ちりめんクラスター」が形成されている状況にある。漁港などの有効活用は、本県の産業振興にとって有効な手段の一つと考えるが、県内における漁港内の土地利用の現状と県の方針について問う。

水産振興部長　昭和25年の漁港法制定以降、漁業就労者が日常的にする荷さばき所、野積場、道路用地整備を進めておりまして、



室戸市でのスジアオノリ養殖施設



スジアオノリを使用した商品

現在、県内88漁港で合計130㎡の用地が造成されておりますが、人口減少や高齢化の進行によって漁村の活力が低下していることもあり、未利用地が全体で8.6％ございます。

また、漁港ストックの最大限の活用と漁村のにぎわいの創出の取り組みについて、本県においても拠点漁港への漁港機能の集約化を図るとともに、地域資源を活用したレストラン、水産物の加工販売施設、マリンスポーツ体験漁業などの滞在型観光や漁港内での水産物の蓄養・養殖の実施など、地域の活性化や交流人口の増大につながる漁港の有効活用を積極的に進めてまいりたいと考えております。


全国ご当地ジャコサミット 2017 in 安芸

(2)安芸漁港の防災対策について

野　町　**今回、新たにスジアオノリ養殖施設が整備される漁港の西用地では、平成26年の台風11号に続き、昨年の22号台風でも大波が越波し、さらに、長周期波による「すびき現象」が発生し濁流となった海水によって漁船が転覆寸前になるなど、日々の漁業活動への影響は元より、防災拠点漁港としての機能にも支障をきたしかねない状況が続いている。昨年の6月議会でも質問したことではあるが、新たにスジアオノリ養殖施設が誘致されることも踏まえ、沖防波堤の延伸などの防災対策をどう進めるのかについて、改めて問う。**

水産振興部長　安芸漁港では、新たなシラス加工業者の進出に加えスジアオノリの陸上養殖も予定されていることから、これらの用地の安全性を確保するために進出企業の用地のかさ上げなど早急な対応を図ってまいります。また、昨年の台風襲来時、


安芸漁港の防波堤を越波する大波

お話にありましたように係留されている漁船が岸壁の乗り上げるという事故が発生しております。海面変動を低減させるための、沖防波堤の延伸など防災対策工法の実施検討を行ってまいります。



野　町　**私も昨年の台風22号による大波の越波と濁流により漁船が転覆しかけた恐ろしい様を目の当たりにし、沖防波堤の延伸などの対策の必要性、緊急性を改めて実感した。漁協関係者からは、長年にわたり強い要望が挙げられていることを踏まえしっかりと対応して欲しい。**



4 農業基盤整備と集約化について

(1)北川村の土地基盤整備への支援について

野　町　**本県や北川村からの要望を受け、来年度、国において「農地中間管理機構関連農地整備事業」が新設される。本事業では県営事業において、農地中間管理機構を通した担い手への農地集積を8割以上とすることなどを条件として、事業費の農家負担をゼロとし、さらに、中山間地域では、事業対象農地面積の下限設定を大幅に緩和し、より中山間地域の実態に即した要件となっている。高齢化と耕作放棄地の拡大が加速的に進んでいる農業現場において、ユズなどの有望品目への集約化、また、担い手への農地集積を進めるために、当事業は大変有効であると考えるが、本事業の活用にいち早く取り組む北川村での事業実施への支援について問う。**


拡大する耕作放棄地

農業振興部長　新たな基盤整備事業は、これまで対象とならなかった小規模な面積でも県営事業として実施することが可能となったことから、北川村では、来年度からの事業着手に向け、現在、農地中間管理権の設定や事業計画書の策定に取り組んでいるところです。

一方、本事業では、整備した後8割以上を農地中間管理機構を通じて集積することが、事業の要件となっておりますが、農業者の高齢化や兼業農家が多い北川村では、担い手の確保が一番の課題となっております。



このため県としましては、基盤整備の推進だけではなく、認定農業者や新規就農者などの担い手農家の確保育成対策にも北川村と連携して取り組んでまいります。

(2)農地中間管理機構関連農地整備事業の活用について

野　町　**県内の中山間地域におけるユズや施設園芸団地の形成などに、当事業をどのように活用していくのか問う。**

農業振興部長　来年度から事業着手する北川村では、ユズ団地の形成に、また事業着手に向けた計画策定に取り組む宿毛市や本山町などでは、土佐文旦や施設園芸での導入を検討しているところです。この新たな事業で

は、農地面積が狭小で道路や農業用水路なども未整備な条件不利地域におきましても、収益性の高い農業を実現することが可能となりますので、より多くの地域で活動していただきますよう、今後も市町村や農地中間管理機構と連携し、集落代表者や土地改良区など、農業関係者への事業の周知や啓発に引き続き取り組んでまいります。


各地で進む農地基盤整備（安芸市井ノ口）

5 大規模直販所を核とした複合施設について

(1)アンテナショップ機能を活かした県内加工品のブラッシュアップと外商について

野町　ＪＡグループでは、自らの事業として、また、生産部会や女性部などの活動の一環として、農産物加工品の開発や販売促進に精力的に取り組み、地域に根ざした多くの商品が本県の食文化の一翼を担っている。平成27年のＪＡグループの加工品の販売額は37億４千万円とのことであるが、まだまだ地域に埋もれている商品も多いのではないかと思う。当施設を活用し、県内加工品のブラッシュアップや外商にもしっかりと取り組むべきではないかと考えるがどうかを問う。

農業振興部長　議員のお話のございましたとおり、地域内でしか販売されていなかった農産物加工品の磨き上げを行い、ＪＡグループが計画している複合施設のアンテナショップ機能を活用することで、今後販売が広がることが期待できます。また、複合施設での販売を目指すといった目標ができることで、生産者の意欲が高まることや、県内外のお客様の反応を直接伺うことで、さらなる磨き上げにつながることも期待できます。

　このため県としましては、例えば複合施設内に農産物加工品のテスト販売を行うチャレンジコーナーの設置をＪＡに提案するなど、この機会を逃すことなく、販売拡大につなげていきたいと考えております。



野町　安芸市においても、安芸桜ヶ丘高校の生徒の皆さんと地元企業が協働して開発した「なすプリン」が、昨年の全国商業高校フードグランプリで大賞を受賞し、先日、安倍総理にもご試食いただくなど話題となっている。県内各地域には、地元食材を使った「キラット光る商品」が沢山ある。地域の方々の創意工夫と情熱によって開発された商品が、当施設を介して益々ブラッシュアップされ、高知の食文化として全国発信されることを期待する。





活動報告

平成29年11月中旬
▶平成30年1月中旬

地域周りでは、安芸市・芸西村の住民の皆さんの声をお聞きするとともに、ご要望についての現地確認などに出向いています。

	活動内容
11/14(火)	シンガポール政務調査 高知県シンガポール事務所訪問 シンガポールスポーツ庁、JETRO訪問
15(水)	MDI本社表敬訪問（飲料メーカー） 日本政府観光局シンガポール事務所訪問
16(木)	食品輸入商社、量販店等訪問 シンガポール県人会との交歓会
17(金)	安芸事務所（面談2件）
18(土)	香南くろしお園ふれあい祭（香南市） 地域回り（芸西村）
19(日)	シンガポールMDIの記念植樹園現地調査（北川村） あきあいあい祭、芸西元気フェスタ
20(月)	自転車安全利用条例の勉強会（高知市） ベギー葉山さんを偲ぶ会 ユズ輸出に関する商社との懇談会
21(火)	知事との意見交換会（高知市） 安芸事務所（面談2件）
22(水)	高知県林業大学校落成式（香美市） 青年農業士OB会との意見交換会（高知市）
23(木)	休　暇
24(金)	国道渋滞に関する現地調査（安芸市） カシオワールドオープンゴルフ見学 安芸漁協の要望活動（県議会、水産振興部）
25(土)	シンガポール政務調査報告書作成 高知農業高校同窓会県庁支部総会（高知市）
26(日)	中谷衆議院議員との意見交換会（安芸市） 穴内消防団懇談会
27(月)	農福連携に関する意見交換（高知市） 地域回り（安芸市）
28(火)	安芸市役所との打合せ 自民党議員総会（議案説明）（高知市）
29(水)	地域回り（安芸市） 経済同友会安芸支部例会
30(木)	安芸事務所（面談2件） 安芸百走会理事会
12/1(金)	決算特別委員会（高知市） 租税債権回収機構役員との面談 安芸タートルマラソン実行委員会
2(土)	安芸事務所（調査報告書作成）
3(日)	安芸タートルマラソン走路清掃
4(月)	安芸事務所（調査報告書作成）

	活動内容
12/5(火)	安芸タートルマラソン実行委員会 安芸事務所（面談2件） 芸西村消防団幹部懇談会（香南市）
6(水)	県道の渋滞対策に関する現地調査（安芸市） 安芸本町商店街クリスマス飾りつけ 安芸ロータリークラブ例会、懇談会
7(木)	**12月定例県議会開会** 自民党議員総会、県執行部との面談 芸西村いきいき会交流会（特殊詐欺）
8(金)	障害者福祉に関する意見交換（安芸福祉保健所） クラウドファンディングに関する調査 安芸市消防団幹部懇談会
9(土)	安芸タートルマラソン前日準備 キャンドルナイト安芸 安芸防衛協力団体合同懇談会
10(日)	安芸タートルマラソン 山本有二衆議院議員と農業者との意見交換会
11(月)	高規格道路整備に関する現地調査（安芸市） 土佐文旦協議会、安芸交流会
12(火)	一般質問
13(水)	一般質問 和食ダム工事に関する協議
14(木)	一般質問 自民党議員総会 安芸商工会議所女性会との面談
15(金)	自民党議員総会 総務委員会 水産振興部との面談
16(土)	高校生津波サミット（高知市） キッズバリアフリーフェスティバル 畑山山援隊懇談会
17(日)	休　暇
18(月)	総務委員会 水産振興部との面談 高知県園芸連、全農高知県本部訪問
19(火)	総務委員会（とりまとめ） NOSAI高知本所訪問
20(水)	安芸事務所（面談2件） 安芸市ワークセンターとの面談 農業振興部との面談、オーテピア見学
21(木)	**12月定例県議会閉会** 自民党議員総会 総務委員会
22(金)	病院受診
23(土)	休　暇
24(日)	地域回り（安芸市） 石神神社しめ縄づくり（井ノ口）
25(月)	県東部選出県議の会設立総会 高知農業高校、果樹試験場、 農協中央会高知県本部訪問

	活動内容
12/26(火)	スジアオノリ養殖事業に関する検討会 地域回り（安芸市）
27(水)	地滑り復旧工事現場の調査（安芸市） 地域回り（安芸市）
28(木)	地域回り（芸西村） 芸西村長、安芸市長との面談 安芸市消防団団長巡視
29(金)	地域回り（芸西村）
30(土)	地域回り（安芸市） 安芸事務所（大掃除）
31(日)	安芸事務所（大掃除）
1/1(月)	安芸市走り初め、寒中水泳大会
2(火)	芸西村成人式 地域回り（芸西村）
3(水)	安芸市成人式 地域回り（安芸市）
4(木)	土佐緑友会、建設業協会 名刺交換会（高知市）
5(金)	安芸市市民賞表彰式、名刺交換会
6(土)	休　暇
7(日)	安芸市消防出初め式、祝賀会
8(月)	地域回り（安芸市）
9(火)	農業振興部との面談（高知市）
10(水)	安芸市長との面談 地域回り（安芸市）
11(木)	全農ネクスト夢ファーム調査（安芸市） JA芸西支所駅伝大会、地域回り（芸西村） 畑山夢楽役員との意見交換
12(金)	移住希望者のアテンド（芸西村） 地域回り（安芸市）
13(土)	公明党東高知支部賀詞交歓会（南国市）
14(日)	スジアオノリ養殖事業に関する現地調査 （室戸市） 地域回り（安芸市）
15(月)	黒潮町役場新庁舎の調査 高知県担い手育成センター調査（四万十町）


シンガポール飲料メーカー（MDI）との意見交換（高知県産ユズ果汁使用）


安芸市消防出初式



安芸市寒中水泳大会（平成30年1月１日）